

市民参加推進計画の推進に関する成果や課題の分析について

1 概要

平成 28 年度からのフォーラムの取組として、市民参加推進計画の成果や課題等を分かりやすく市民に示し、また、庁内で共有するために、毎年度、特徴的な事業をピックアップし分析し公表する。

今年度は 2 事業を分析するため、「分析第 1 部会」「分析第 2 部会」を設置し、それぞれの担当部署からのヒアリングを実施した上で、市民参加の成果や課題等について分析し、また、その公表の方法等について議論する。

第 2 期市民参加推進計画改定版の記載

附属機関「市民参加推進フォーラム」において、計画推進に関する成果や課題等を分析し、数値を用いるなど分かりやすい形でホームページで公表

2 分析の目標

- ・分析結果を庁内の各局区等に周知し、次年度以降の各局区等の事業等に活かすことで、市民参加推進計画の着実な推進につなげる。
- ・市民に京都市の市民参加の取組や効果を伝えることで、更なる行動促進につなげる。

3 分析の視点

成果や課題の分析については、可能な限り良い点に着目し、以下の 4 つの視点を軸に分析する。

(分析する視点)

- ①周知方法 ②市民参加の手法
- ③市民参加の効果 ④他事業への波及の可能性

4 成果物

1 事業につき「A 4・数枚」程度にまとめる。

5 留意点

今年度は、「基本方針 3 市民のまちづくり活動の活性化」の施策に関連するものを選定していない。基本方針 3 の分析方法については、今年度の分析方法・結果をふまえて検討する。

基本方針 3 に関連する事業を選定していない理由

- ・市民のまちづくり活動を活性化させるための事業は、市民と本市が双方向の関係よりも、むしろ補助金の交付など「支援」をする事業が多く、「協働」の観点から分析を行える要素が少ない。(例：補助金交付、講座、専門家派遣など)
- ・中には特徴的な事業もあるが、そのような事業は固有の目的を持っているものが多く、分析結果を他の多くの所属に波及させることが難しい。(例：各区のまちづくりカフェ、ラジオ放送による市民活動の PR、自治会の加入促進、ソーシャルビジネス支援など)

6 部会の内訳

	分析第1部会	分析第2部会
分析対象	～ICTを活用した市民協働による維持管理～ 「みっけ隊アプリケーション」	京都市景観市民会議
担当部署	建設局土木管理課	都市計画局景観政策課
市民協働の観点での特徴	「土木管理」という、これまで市民との協働という観点を取り入れにくかった分野において、企画段階から市民参加型のワークショップを実施する等、職員が市民意見を直接聴く機会を設けた。	市の景観政策のPDCAサイクルがシステムとして構築されているなかで、C（チェック）の段階において、公募により集まった市民による評価及び、課題抽出やその課題の改善に向けての意見交換が行われている。
部会員	内田 香奈 川島 ゆり子 芝原 浩美 杉山 準 津田 陽輔 樋口 幸則 松下 亜樹子 吉川 忠男	荒木 泰子 太田 清美 兼松 佳宏 桜井 政成 竹内 香織 壬生 裕子 宮西 勇人

7 スケジュール

【今回の会議】

部会において、分析対象事業の担当部署からヒアリングをし、分析を行う。

全体会議で部会の内容を共有し、分析結果の公表の方法等について議論する。

【1月中旬ごろ】

10月の部会の内容をまとめた資料を事務局が用意し、部会において分析結果のとりまとめについて議論する。

10月と同様に全体会議で部会の内容を共有する。また「第5章」の進捗状況について確認し、議論する。

【2月下旬ごろ】

分析結果を取りまとめる。